

平成20年度
環境活動レポート

(平成 20年 4月 1日～平成 21年 3月 31日)

神鋼メタルプロダクツ株式会社

平成 21年 5月

(1)事業所名、所在地および代表者

事業所名：神鋼メタルプロダクツ株式会社 本社及び本社工場
所在地：福岡県北九州市門司区小森江2丁目2番1号
代表者：代表取締役社長 尾崎 幸一

(2)環境管理責任者および連絡先

環境管理責任者：常務取締役工場長 和田 克利
連絡先：総務担当係長 懸谷 勉
TEL(093)381-1331 FAX(093)381-3833

(3)生産品目

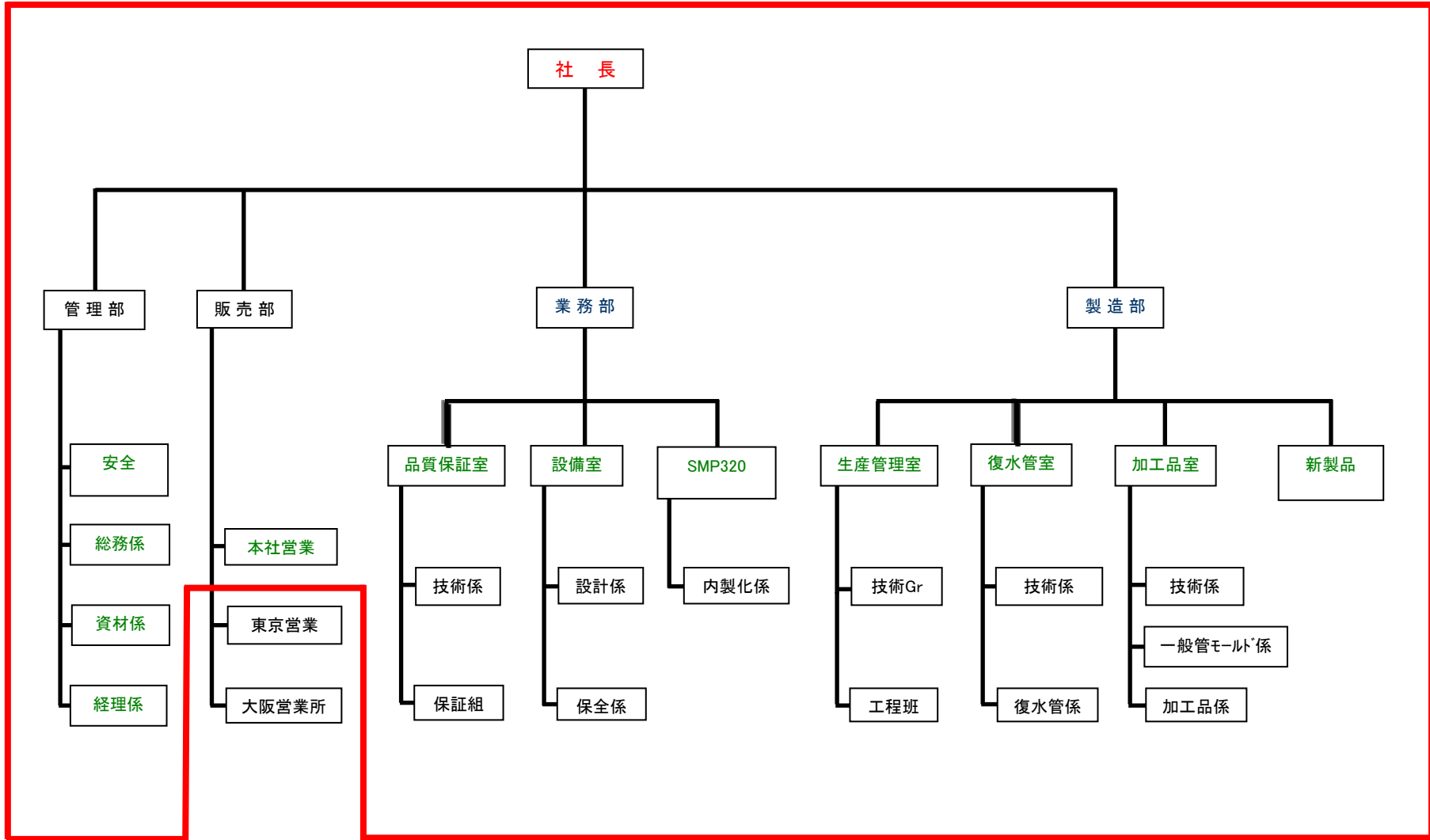
復水管、銅・銅合金管、モールド、複合製品、熱交製品、その他各種加工品

(4)事業の規模

売上高：97 億円
従業員数：227 名
敷地面積：52,000 m²
建屋面積：32,400 m²



(5) 認定対象部署



 EA21認定対象部

環 境 方 針

1. 基本理念

神鋼メタルプロダクツ株式会社は、地球環境の保全がすべての生命体に共通する最も重要な課題であり、より健全な地球環境を次世代に引き継ぐことが使命であると認識したうえで、このかけがえのない地球を守るために、事業活動のあらゆる面において、環境に配慮して行動することを決意します。

2. 行動指針

全員参加による下記取組みを継続的に推進します。

1. 環境負荷低減の推進
 - ・省エネルギーの推進
 - ・廃棄物の削減及びリサイクル化の推進
 - ・水使用量の削減
2. 環境関連法規則の遵守
3. 社会、地域との共生
4. 従業員への教育、訓練

平成18年10月1日

北九州市門司区小森江2丁目2番1号

神鋼メタルプロダクツ株式会社

代表取締役社長 尾崎 幸一

3 環境目標と実績

1. 目標の達成状況

当社は、H18年10月よりEA21を構築し、環境活動に取り組んできました。
H20年度の環境目標と実績は以下の通りです。
二酸化炭素排出量削減、上水+地下水総使用量削減、産業廃棄物排出量削減のいずれも目標をクリアできませんでした。

目 標 項 目	単 位	H17年度 EA21基準年	H19年度 実 績	H20年度 目 標	H20年度 実 績
1 二酸化炭素 排出量の削減	ton-CO ₂ /生産数量 (ton)	1.786	1.630 [■]	1.602	1.726
2 上水+地下水 総使用量の削減	m ³ /生産数量(ton)	5.998	5.353 [■]	5.300	6.130
3 産業廃棄物 排出量の削減	ton/年	213	215 [■]	157	258

※ 二酸化炭素排出量：

H20年度実績は、原単位でH2年度(京都議定書の基準年)より21%削減しています。

また、総量で約28%削減しています。

上水+地下水総使用量：

H20年度実績は、原単位でH9年度(管理スタート基準年)より約21%削減しています。

また、総量で約20%削減しています。

産業廃棄物排出量：

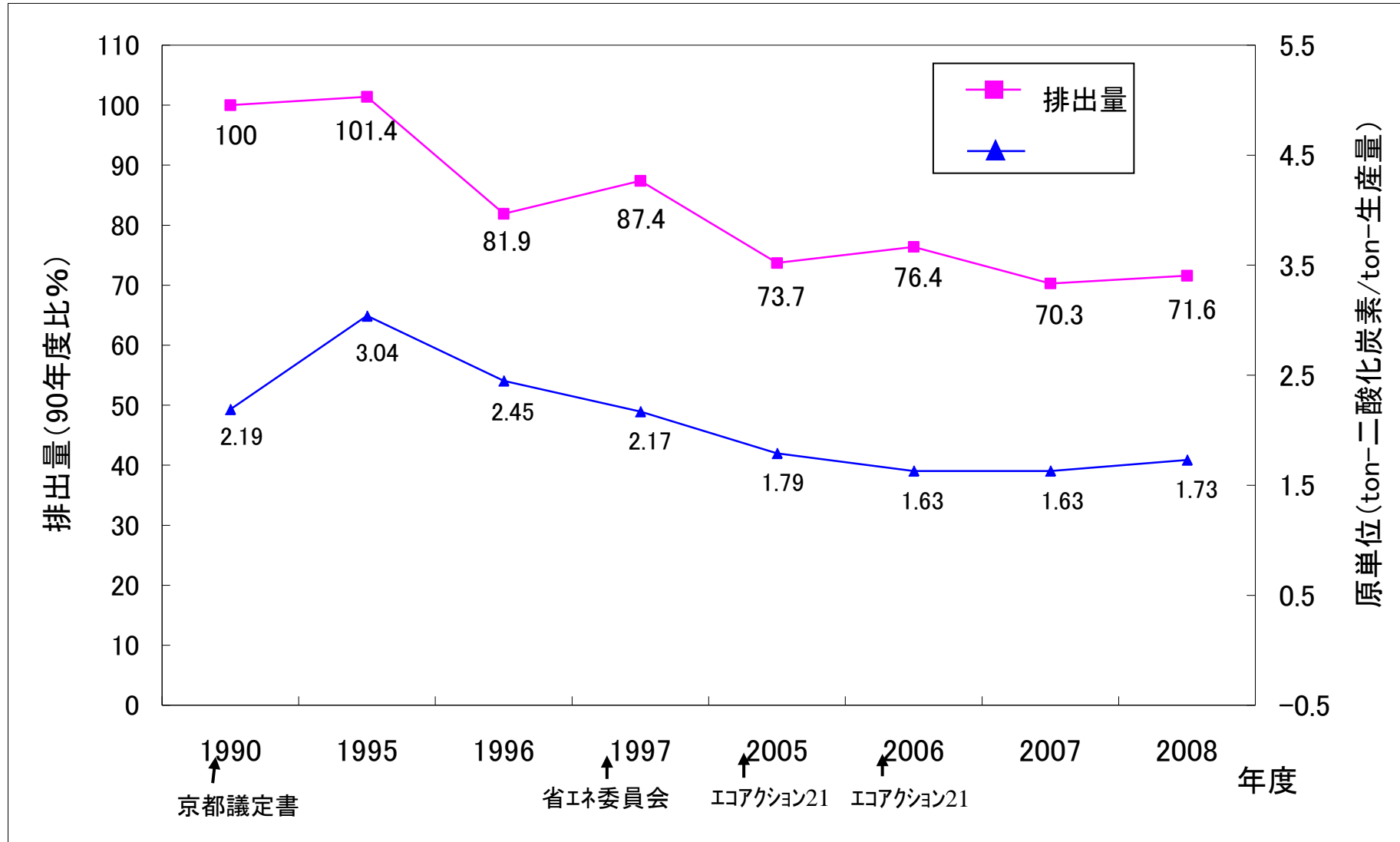
H20年度実績は、H12年度(廃棄物削減プロ基準年)より、38%削減しています。

2. 今年度以降の目標

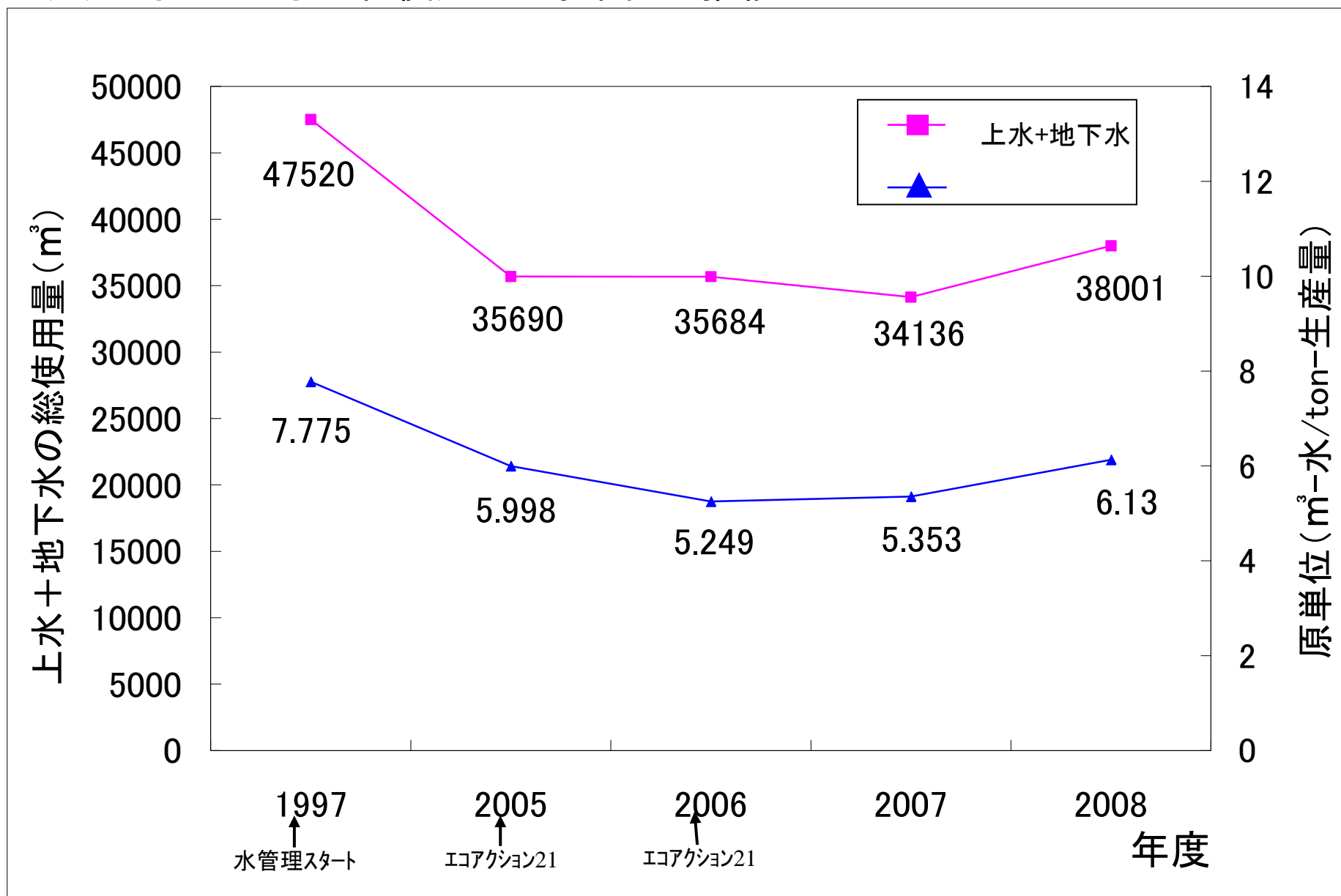
目 標 項 目	単 位	H18年度 実 績	H19年度 実 績	H20年度 実 績	H21年度 目 標
1 二酸化炭素 排出量の削減	ton-CO ₂ /生産数量 (ton)	1.635 (8%)	1.630 (9%)	1.726 (6%)	1.708 (7%)
2 上水+地下水 総使用量の削減	m ³ /生産数量(ton)	5.249 (12%)	5.353 (11%)	6.130 (-2%)	6.069 (-1%)
3 産業廃棄物 排出量の削減	ton/年	162 (24%)	215 (-1%)	258 (-21%)	186 (12%)

()内%はEA21基準年削減率を示す

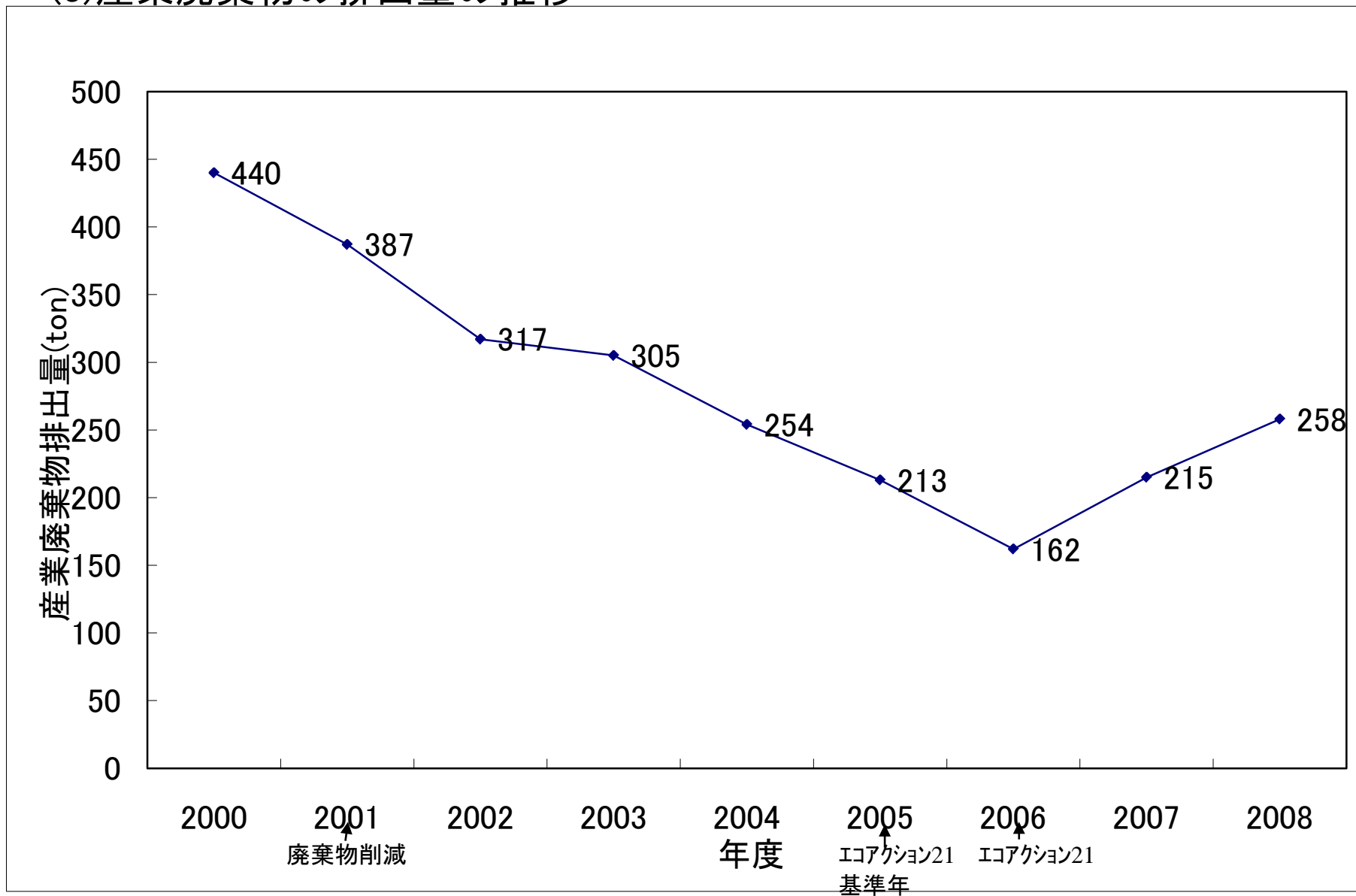
(1)温室効果ガス(二酸化炭素)の排出量と原単位の推移



(2) 上水+地下水の総使用量と原単位の推移



(3)産業廃棄物の排出量の推移



1. 二酸化炭素排出量削減のための取組み

(1) 電気使用量の1%削減

- 銅合金溶解炉の同時2基稼働率を向上し、集塵機原単位の向上を図ります。
- 黄銅連铸用ポンプをON-OFFをこまめに行います。
- 仕上光輝焼鈍炉の生産性の向上を図ります。
- 中間光輝焼鈍炉のローラー回転変速を簡易化し、生産性の向上を図ります。
- モールド材の応力除去焼鈍の要否について検討・見直しを行います。
- 省エネ照明器具への交換を行います。
- 空調設備・照明器具・製造設備のON-OFFをこまめに行います。

(2) 都市ガス・A重油使用量の1%削減

- 仕上光輝焼鈍炉のDXガス使用量を検討し、都市ガス量の低減を図ります。
- 銅管の焼鈍省略を検討しNo1ガス焼鈍炉の都市ガス量の低減を図ります。
- ショットブラスト用エンジンコンプレッサーの空運転をA重油を削減します。
- エンジンコンプレッサーの使用範囲の厳格化と運転時間の短縮により、A重油使用の低減を継続します。

2. 上水+地下水使用量削減のための取組み

- 白銅溶解炉のコイル水圧試験方法改善により、上水使用量の低減を図ります。
- 中間炉酸洗設備の地下水補給方法を見直しし、補給量の低減を図ります。
- 中間炉酸洗設備の蒸気ドレンを活用し、地下水補給量の低減を図ります。
- 250T C/T補給方式変更による水使用量の削減
- めっき製品の水洗水をめっき槽にリターンし、上水補給量の低減を継続します。
- ボイラーの蒸気ドレンと雨水の活用を継続します。
- 使用量不明部署の管理を行います。
- 節水のラベル貼りによる意識付けを継続します。

3. 産業廃棄物排出量削減のための取組み

(1) 廃油排出量の削減

- ローフィンチューブ洗浄廃液の再利用を図ります。
- 抽伸油(K₂C)への浸漬回数を減らし、抽伸材による抽伸油持出量の低減を図ります。
- 押しプレス油圧配管からの油漏れ防止を図ります。
- 圧延機クランク潤滑油を浄油し、再使用を図ります。
- 含油水汚泥の減量化を継続します。

(2) 廃酸排出量の削減

- めっき廃液処理と再利用により、低減を図ります。
- ケニコートNi廃液の処理方法を再検討し、最適な減量処理法を導入します。

(3) その他

- 配布資料の電子化を図ります。
- ウェス使用量の低減を図ります。
- 廃棄物の分別強化により、リサイクル化に努めます。
- シュレッダー紙の活用を継続します。

1. 二酸化炭素排出量の削減

以下の活動を実施しましたが、目標達成することができませんでした。

(1) 電気使用量の削減

- 銅合金溶解炉を夜勤で同時2基稼働を実施し、溶解集塵機原単位を向上しました。
- 中間光輝焼鈍炉のローラー回転変速をハンドルから遠隔スイッチ操作化しました。
- モールド材の応力除去焼鈍なしの品質確性を行い、焼鈍省略により電力を削減しました。
- 構内の外灯33灯を高効率ランプに更新しました。
- その他
 - ・溶解集塵機の運転スイッチを作業場に併設し、ON-OFFをこまめに行いました。
 - ・コンプレッサーについて以下を実施し、電力を低減しました。
 - ① No.1～4コンプレッサーの運転方法を見直しました。
 - ② エア一元圧を0.55MPa→0.50MPaに下げました。

(2) 都市ガス・A重油使用量の削減

- 仕上光輝焼鈍炉の1時間当たりのDXガス流量を絞り、都市ガスを低減しました。
- ショットブラスト用エンジンコンプレッサーを材料段取時停止し、A重油を削減しました。
- エンジンコンプレッサーを可能な限り停止する事を継続し、電動コンプレッサー運転によりA重油の使用量を低減しました。

* 計画していましたが実施できなかった案件は、次年度に引続き取組みます。
また、新たな案件を抽出し、目標達成に努めます。

2. 上水+地下水使用量の削減

以下の活動を実施しましたが、目標達成することができませんでした。

- 白銅溶解炉のコイル水圧試験用上水を垂流しから循環方式に改善し、上水使用量を低減しました。
- 中間炉酸洗設備の地下水補給方法をPH管理による自動補給化とし、補給量を低減しました。
- 中間炉酸洗設備の蒸気ドレンを槽に投入し、地下水補給量の低減しました。
- めつき製品の水洗水をめつき槽にリターンし、上水補給量を低減しました。
- ボイラーの蒸気ドレンと雨水の活用を継続し、上水を削減しました。
- 使用量不明部署5箇所にもーターを取付けて管理強化を行いました。

* 計画していましたが実施できなかった案件は、次年度に引続き取組みます。
酸洗いの水切り・250T C/T補給方式の変更による地下水使用量削減を継続して検討していきます。

3. 産業廃棄物排出量の削減

以下の活動を実施しましたが、目標達成することができませんでした。

(1) 廃油排出量の削減

- ローフィンチューブ洗浄廃液をBTA旋盤に移送し再利用しました。
- 薄肉圧延化により、白銅管(1CNP)中間材の抽伸油浸漬回数を2回から1回に減らしました。
また、抽伸油更新時には上澄み油を汲取り、再利用を行いました。
- 押しプレス油圧配管点検強化と早期修理により、油漏れ防止を行いました。
- 圧延機クランク潤滑油の浮上油回収装置を設置し、油回収を行いました。
- 含水汚泥の天日干しにより、減量化を行いました。
- 1650Tプレスでの超電押出材用圧媒使用量を25%削減しました。

(2) 廃酸排出量の削減

- めっき廃液の自社処理とめっき水洗水の再利用により、低減を行いました。

(3) その他廃棄物排出量の削減

- 会議開催連絡、資料、議事録等の電子メール配布を更に拡大推進しました。
- 廃棄物の分別強化により、リサイクルを推進しました。
- シュレッダー紙を梱包用クッションとして継続使用しました。

* 計画していましたが実施できなかった案件は、次年度に引続き取組みます。
また、新たな案件を抽出し、目標達成に努めます。

4. 環境関連法規等への違反、訴訟等の有無

当社に係わる環境関連法規等の遵守状況をチェックした結果、違反はありませんでした。

また、関係機関等からの指摘おのび利害関係者からの訴訟や苦情は、過去3年間ありませんでした。